

【阪南市総合計画(素案)】

No.	頁	章	タイトル	意見要旨	市の考え方及び対応	記載内容
1	30		新しい土地利用にかかる基本方針図について	<p>表記の件において、現実が反映されていないので、添付の図のような認識で、箱作は門前町として計画していくのが現在の状態からも自然な流れではないかと存じます。 海外からの移住も今後増えるので人口増やスーパーなどの誘致にも優位ではないかと考えます。</p> <p>第4節 新しい土地利用にかかる基本方針図 ① ゾーン・拠点・連携軸の設定図</p>	<p>既存市街地や市街地誘導ゾーンについては、地域コミュニティの規模を勘案し、多機能なコミュニティ拠点づくりを推進し、福祉システムなどと合致したまちの設計や既存ストックの有効活用に取り組むこととしていることから、お示しのような箱作を門前町として計画していくことは考えていません。 また、新しい働き方への対応など、住環境を保全するなかで、新しい価値の創造を図ることで、さらなる居住を促進することとしています。</p>	<p>左記のとおり対応しますので、記載は原案どおりといたします。</p>
2	32		計画の進行管理と行政評価の考え方(第4章)	<p>PDCAを基本の進行管理としている限り、「時代の一步先をゆくまち」には絶対になれません。</p>	<p>今回の総合計画では、これまでのPDCAに加えて、施策・事務事業の構築・改善や、各施策に掲げる指標の達成状況の分析や状況に応じた指標への更新などを行うときは、事例や経験など主観的な要素のみでなく、根拠に基づく企画立案(EBPM)の考え方を重視し、統計データや関連データなどの客観的な要素を根拠とした実効性の高い企画立案・改善に取り組みます。 また、変化が激しく将来の予測が困難な社会・経済情勢に臨機応変に対応していくため、施策の実施に際して即応性を求められる業務などにあたっては、ウーダ(OODA)ループの考え方を参考に、短い間隔での試行と意思決定の積み重ねを重視して取り組みます。</p>	<p>左記のとおり対応しますので、記載は原案どおりといたします。</p>